

## 平成 31 年度 事業計画

### 1 基本方針

石川県林業公社は、昭和 41 年に発足以来、国、県の森林整備目標に沿って分収方式により計画的に森林整備を推進してきたところである。

設立当初に植栽した森林は、すでに 11 齢級になるなど、年々森林資源が充実して全体では 8 齢級以上の森林が 8 割を占めているが、枝打ち等の保育が必要な森林も依然として存在していることから、間伐事業の取組強化や保育事業の充実が求められている。

一方、木材価格の低迷、労務単価の上昇や借入金の利払いなど公社の経営状況は依然、厳しいものがある。

このため、効率的な事業の実施に努めるとともに、分収比率の見直しの推進や経営善に取り組むこととし、引き続き造林事業の維持・管理に努めるものとする。

白山林道については、県、市、地元関係団体と連携し、更なる PR を図り、利用台数の増加に努めるものとする。

また、平成 30 年 12 月に発生した土砂災害の 1 日も早い復旧に努めるものとする。

#### (1) 造林事業

##### ア 分収造林事業

路網整備や高性能林業機械による効率的、計画的な利用間伐を推進するため、331 団地 13,731ha の公社造林地について森林経営計画を策定しており、平成 31 年度も引き続き造林地の生育状況に応じた利用間伐等を実施し、計画的な森林整備を行う。

また、経営改善の最重要課題である分収比率見直しの契約変更については、平成 30 年度末時点で公的機関も含めた進捗は、契約面積全体(13,731ha)の 93.4%を見込んでおり、引き続き土地所有者の理解を得ながら分収比率の見直しに取り組めます。

##### イ 公社有林管理事業

森林の公益的機能の保全及び地域モデル林の造成等を目的として、昭和 48 年度から平成 14 年度までに県内 6 市町で 475ha を取得し、森林整備を進めている。

なお、平成 31 年度は、事業実施予定箇所はない。

ウ 県営林管理受託事業

石川県からの委託を受け、県営林の保育管理を適切に実施する。

(2) 白山林道管理事業

ア 白山白川郷ホワイトロードの利用者の安全を最優先に、快適なドライブが楽しめるよ適切な管理・運営に努める。

イ ふるさと林道整備事業の受託により、岩盤や構造物の劣化が著しい箇所は安全対策工事を実施する。また、平成 30 年12月に発生した土砂災害の復旧を図る。

ウ 誘客対策については、石川・岐阜両県、白山市、白川村や地元関係団体と連携し、広報活動の推進や各種イベント等の充実を図ることで、利用台数の増加に努める。

(3) 分収育林事業

県下3地区の分収育林地については、枝打ち・間伐等の保育事業はすべて終了し、今後は、主伐に向けた適切な管理に努める。

2 事業計画

(単位:千円)

事業名	事業量	事業費
1 造林事業		千円 2,080,176
(1) 分収造林事業		1,951,837
(ア) 保育費等		237,377
利用間伐	295.40 ha	140,335
枝打ち	0.80 ha	349
除伐	0.80 ha	293
森林作業道開設	34,550 m	69,100
路網改良	25 m	2,500
林業専用道	瀬戸線 500 m	12,400
林業専用道 ( H30 年度繰越 )	余地線 500 m	12,400
(イ) 管理費	事務費、職員給等	126,160
(ロ) 経営改善費	元利償還金	1,588,300
(2) 県営林管理受託事業	利用間伐等 114.93 ha	90,512
(3) 手入れ不足人工林整備支援受託事業	事務費、職員給等	19,000
(4) 公社有林管理事業	県長期借入金借換	18,827

(単位:千円)

事業名	事業量	事業費
2 白山林道事業		千円 352,188
(1) 白山林道管理事業		181,902
(ア) 施設維持	林道の除雪、維持作業等	34,829
(イ) 管理費	職員費、元利償還、事務費等	143,073
(ウ) トレッキングルート魅力発信事業		4,000
(2) 白山林道リフレッシュ事業	転落防止柵 41 m	2,538
(3) ふるさと林道整備受託事業	法面保護工等 227 m	97,650
(4) ふるさと林道整備受託事業その2 ( H30 年 度 繰 越 )	土砂災害調査設計・応急対策	65,000
(5) 白山白川郷ホワイトロード トイレ洋式化事業	中宮レストハウス駐車場 ふくべ上園地駐車場 樽の木台駐車場	5,098
3 分収育林事業	森林国営保険料	38
合 計		2,432,402